

新宿区

UD

まちづくり ニュースレター

Vol.
08
SPRING

第8号
2023.03

UDスポット いちがやのもりほんとかつじかん 市谷の杜 本と活字館

「市谷の杜本と活字館」は、DNP（大日本印刷株式会社）による再開発に伴い、工場などで保管されていた活版印刷用の活字や機械を展示する史料館としてオープンしました。建物は大正時代に建設され、時代と共に増築された営業所を創建当時の姿に復元しています。ただ元の姿に戻すのではなく、エレベーターやスロープ、広くてフラットな通路を整備するなど、UDの視点を随所に取り入れて誰もが利用しやすいように配慮された施設としてアップグレードされています。

ニュース第8号では、「市谷の杜本と活字館」で見つけた様々なUDポイントをご紹介します。

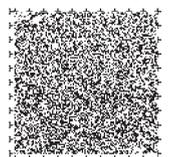
ユニバーサルデザイン

UDとは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう生活環境その他の環境をつくり上げていく考え方です。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、新宿区の実情や、UDスポットの紹介、利用者の声などをお伝えしていきます。



UnitVoice

いちがや もり ほん かつじかん

市谷の杜 本と活字館

Ichigaya Letterpress Factory

UD探検隊が行く！新宿UDまちづくりスポット

ベビーカーや車椅子でも
移動しやすい広くて
フラットな通路

ワークショップや印刷体験が
行われている広々とした2階

Good
UD
ポイント

誰もが使いやすい設備や空間の整備
館内には、ベビーカーや車椅子でも移動し
やすい広い通路や空間が整備されています。建
物を大正時代の姿に復元する際、エレベーター
やスロープが新設され、誰にとっても利用し
やすい施設へと進化しました。

利用者コメント

駅からは少し遠いですが、お散歩が
てらここまで来ました。建物がレトロ
で雰囲気が良く、大量生産ではない手
作りのものを扱っているところが魅力
的ですね。

(50代・女性)



利用者コメント

建物が素敵ですし、展示の内容
やワークショップもおもしろか
ったです。普段はできない内容の体
験ができました。

(40代・女性)



利用者コメント

授業の一環で、班のみんなと
見学に来ました。機械や道具、
仕組みなどを実際に見ることが
できておもしろかったです。

(10代・女性・3人組)



利用者の移動のしやすさに
配慮して、スロープや
エレベーターを整備



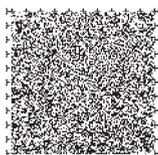
キューブを置くと、説明が
モニターに表示される

タッチパネルを
用いて、活字を拾う
作業が体験できる

Good
UD
ポイント

様々な体験方法の開発

映像やタッチパネルなど、DNPが開発した展示手
法による様々な体験を通じて、印刷について知るこ
とができます。また、現地に行きづらい人も展示を
見られるように、ホームページ上で館内のVRツアー
が公開されています。



Uni-Voice



Good
UD
ポイント

まちなかの開かれた空間 市谷の杜

周辺に整備された「市谷の杜」は、まちに開かれた空間として、ゆったりとした時間を生み出しています。

のんびりと散歩できる
落ち着いた空間



印刷体験の際はスタッフがサポート



Good
UD
ポイント

おもてなしと気遣いにあふれたスタッフの方々

スタッフは来館者を温かく迎え入れ、必要に応じて案内や手助けをしています。このおもてなしと気遣いの姿勢は、「本と活字館」の魅力の一つです。



スタッフコメント

ベビーカー利用者や歩行に不安がある方など、サポートが必要な方がいらっしゃった時は、スタッフ全員で情報を共有して対応しています。障害の有無等にかかわらず、なるべく多くの方に印刷体験をしていただきたいので、いらっしゃった方には積極的にお声がけしています。

利用者コメント

初めて来ましたが、もっといろんな人に知ってもらいたいと思える素敵なお店でした。スタッフの方も感じが良く、歓迎してくれている気持ちが伝わってきました。(40代・女性)



運営者インタビュー

「市谷の杜 本と活字館」は大正15年に建設され太平洋戦争の空襲を乗り越えた歴史を持つ建物です。増築・改築しながらDNPで2016年まで使用されてきましたが、再開発にともなって、企業史料館として生まれ変わりました。建物は曳家（ひきや）工法を用いて保存され、昔の写真や資料から創建時の姿が復元されました。内部は活版印刷時代の工場を再現しています。古い建物やその雰囲気を活かしながらも、エレベーター・スロープの設置や自社開発の展示システムの導入など、UDの視点を様々な箇所に取り入れています。

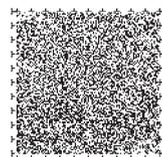
「本と活字館」では、訪れた方にいろいろな体験をしていただけるよう、展示の案内ツアーやしおりの活版印刷体験、ワークショップの開催などの様々な取り組みを実施しています。**スタッフが説明やサポートを行い、お子さんから高齢の方まで幅広く多くの方に楽しんでいただいています。**また、コロナ禍での対応として来館予約システムを導入したことをきっかけに、実際に来館できない方や遠方の方などにも展示を見ていただけるように、アーカイブも兼ねてホームページ上で館内のVRツアーを公開しています。

建物の周辺にはDNPが整備・管理を行っている「市谷の杜」が広がり、四季折々の美しい風景が訪れた人々の目を楽しませてくれます。在来種の植物が植えられた杜には遊歩道も整備されており、近隣の方などが散歩を楽しむスポットとなっています。

印刷の基本は「伝えたいことを伝えやすくすること」。そのため、よりわかりやすく伝わりやすい情報の見せ方や、力が弱い人でも開けやすいパッケージの工夫など、**DNPの全ての製品やサービスの根底にはUDの考え方があります。**「市谷の杜 本と活字館」もこの考え方のもとで設計されています。



DNP（大日本印刷株式会社）
コーポレートアーカイブ室
齋田さん・竹馬さん



Uni-Voice



「多様性とまちづくり」 は自分事！？



特定非営利活動法人
実利用者研究機構
岡村正昭さん



企業や学校などを対象に、
研修や講演会を実施しています。

私は、世の中の「わかりにくい、使いにくい」を解消するために調査、研究、教育を行なっている「実利用者研究機構」という機関で、様々な企業や自治体向けにユニバーサルデザインの指導・研修・アドバイザリーをしています。

みなさんは、「多様性とまちづくり」と聞いて何をイメージしますか？

車いす利用者の段差解消のこと？視覚障がい者の点字ブロックのこと？高齢者への配慮？

ちなみにまだ歩けるし、見えるから自分は関係ないと思っている方はいませんか？同じように、まだ多様性がマイノリティ（少数派）だと思っている方はいませんか？

今や多様性は、マイノリティ（少数派）ではなく、マジョリティ（多数派）に変わりつつあります。例えば、メガネ、コンタクトレンズ、老眼、白内障、近視遠視乱視など、なにかしら「みえにくさ」を感じている人は、障害手帳の有無に関係なく、今

は多数派です。同じように、腰痛も日本人の8割以上が生涯において経験するとも言われていますし、膝の痛みを感じている人やその予備軍の人も年々増加しています。「聞こえにくさ」についても、聴覚障がい者以外にも、加齢とともに耳が聞こえにくくなる方も増加傾向にあることや、歩くときに常にイヤホンをつけている人も増えています。「多様性とまちづくり」が、実は身近な「自分事」ということを実感してき

ましたか？

その上で、みなさんは、どんなまちに住みたいですか？どんなまちに遊びに行ったり、働いたり、通学したいですか？まちは自分以外の人もいるから、できれば、より多くの方の便利が詰まっているまちの方がいいな！そんなまちづくりを目指すのが、「新宿区ユニバーサルデザインまちづくり」です。

そのためには、みなさんもいろんな人の特性をきちんと理解する必要があります。

困っている人を助けるという視点だけではなく、いろんな人が良いまちと考えるためには、現在、課題や問題になっている環境や建物を実際の利用者に合わせて最適化（アップデート）していく必要があります。多様性は、環境に応じて日々変化していきます。

これからも医療の発展、少子高齢化、デジタル化、コロナ禍の日常など様々な要因で、「使いやすさ」や「わかりやすさ」は変化していきます。

特に建物は、実際の利用者を取り巻く環境の変化に合わせて、アップデートしていかないと、見た目や設備は新しくても、「実際の利用者に使にくい建物」になってしまいます。どんな人でも、年齢を重ねていくことで、身体特性は変化していきます。だからこそ、他人事ではなく、「自分事」として、これから先の未来のまちや建物のことを考えてみる機会をぜひ持つてみてください。

(今回のコラムはUDに詳しい専門家の方からご寄稿いただきました。)

